



楽々亭通信

第 34 号
令和5年8月1日号

発行：NPO法人没イチの会・京都

7月の楽々亭を

開催いたしました

■畢竟依に帰命せよ

七月号の寄稿が随分長くなつてしまい、編集の北口さんが前編・後編に分けてくださいました。ということ、八月号は少し短いものを、もう一つ。

■「誕」の意味

四月八日は、「花まつり」、お釈迦さまの誕生日ですね。

五月二十一日は「降誕会」とよばれる、親鸞聖人のお誕生日です。

では、七月九日は何の日でしょうか？
.....

私の誕生日です。(失礼いたしました。)

さて、この誕生日の「誕」という字の意味を、辞書で



引いてみてください。きっと、どなたも驚かれることと思います。

私の使っている辞典では、

① でたらめを言うこと。嘘をつくこと。他人をだますこと。

② 生まれること。

また、別の辞典には、「誕」とは、嘘、偽り、でたらめ、生まれることと出てきます。

誕は、生まれるという

意味だと思っていたので、第一の意味が、「嘘・偽り・でたらめ」で、びっくりしました。

しかし、「誕」という

字を分けてみると、「言べん」+延べる(広げる)ですから、言葉を広げ

る、確かに、嘘・偽り・でたらめです。

「誕生」とは、嘘・偽り・でたらめといった、

何ひとつ真実のない世界に生まれてきた、ということ、です。

では、そのような世界

の中で、皆さんは何を当てる頼りとして生きておられますか？

お金(財産)でしょうか・家族でしょうか・地位・名誉でしょうか・健康でしょうか.....

しかし、それらは、年を重ねるにつれ、もぎ取られてゆく。

決して「畢竟」の抛り所とはならないと、気づかされます。

では、あなたが、最後の最後まであて頼りとして生きていけるものは、何でしょうか？

ご一緒に考えてみませんか。

■お葬儀について

.....前回の続き.....

これを傍でみている子供は、どのように思うでしょうか。

きつと、「ああ、おじいちゃん、おばあちゃんがいなくなるというのは、こんなに大変な事なんだ。」という人の価値がとても大きいということがわかる。

「人、ひとりの人生というのは、こんなに重大なものなんだ。」と必ず肌で感じます。

ですが、これらをちよちよつと済ませ、すぐに日常に戻れば、それをみた子供は、「人間のいのちはこの程度のもの」、「いのち終えることは日常業務の一つとして、片付けられるものなんだ」と思います。お葬式は亡くなった人

の価値を頭す、目に見える現象です。

佐々木先生は、「お葬式をしないということは、残された子供たちがせつかく一人一人のいのちの重さを学ぶ機会を奪うということ、もつと」と、遺された人にとって少しも果報にならない無駄死にです。」と、はっきり言われました。

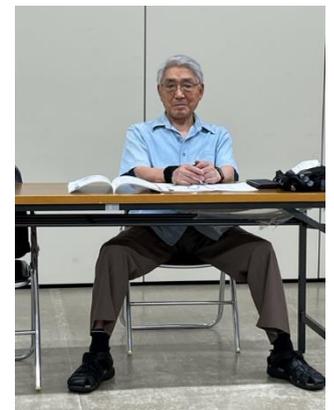
そして、生きてる間に善いことをしなくてもいい。死んだときにお葬式を丁寧に行う。そのことが遺された人たちに、とても大切なものを、自分が死ぬことで授ける事ができます。

2020年後の現代を生きる私たちもまた、このお釈迦さまのおこころを大事にしたいものです。

いかがでしたか、今月は佐々木閑先生から教えてもらった、「お釈迦さま



のお葬式観」をご紹介いたしました。
 因みに、先生ご自身のお葬儀
 について、奥さまにはこのよう
 に言っておられるとのことでした。
 「遺言 私が死んだら、予算
 内で最高のお葬式にして下さ
 い。」



楽々亭 8月の予定

8月は休会とさせていただきます。

参加を楽しみにされていた方々には申し訳ございません。



楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都
 住所：京都市西京区大枝北沓掛町一丁目5番地2-406
 TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328
 MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。